郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財　上三川城主横田家累代の墓

上三川の歴史の中で忘れてはならないものの一つとして、上三川城があげられます。１２４９年に宇都宮氏の領域の南の要として築かれた上三川城は、宇都宮と結城を結ぶ街道沿いということもあり、戦略的にも重要な城でした。このような重要な城を任されたのは、宇都宮氏の五代当主頼綱の次男宇都宮（横田）頼業でした。

この頼業は、宇都宮氏一族であることから、全国に股をかけ活躍をした武将でした。鎌倉幕府内でも有力御家人であった宇都宮氏は、幕府の運営に係るために、鎌倉に出仕する者も多かったのですが、叔父の朝業が隠居した後に、代わりに出仕したのは頼業であり、その活躍の様子は鎌倉幕府の歴史を記した「吾妻鏡」にも見られます。また、１２２１年に発生した承久の乱における宇治川の合戦では、勇猛果敢な活躍で弓矢の名手として名を馳せました。乱はご存知の通り幕府方の勝利に終わり、頼業をはじめとした活躍によって、伊予国の守護職が宇都宮氏に与えられると、１２４０年頃に頼業は伊予国守護に任じられているなど、活躍した範囲は西日本にまで及ぶのです。

その頼業によって築かれた上三川城は、その後、横田氏を名乗った頼業の子孫たちによって代々継がれていきましたが、１３８０年に起き、宇都宮氏が大敗を喫した裳原の戦いに際して、師綱・綱業親子が重い傷を負い、城主としての仕事を行うことが困難になったことから、一族の今泉氏に城主が交代したといわれていますが、横田氏はその後も上三川城内に屋敷を構え、政務に当たっていたと考えられます。

上三川城主横田家累代の墓のある善応寺は、１３１９年に五代上三川城主の貞朝によって建立された横田家の菩提寺です。菩提寺が作られたのは、上三川城が築城されてから70年が経過した頃です。墓は宝篋印塔という仏塔で、平安時代後期に作られはじめ、鎌倉時代の中頃になると、墓碑として利用されるようになりました。現在、墓域には南北朝時代の特徴を残した、合計で９基の宝篋印塔が静かにたたずんでいます。

上三川城主横田家累代の墓

巡回バス最寄りバス停
本郷線（ピンクのバス）
大町下車、徒歩10分
▼問い合わせ先＝生涯学習課　生涯学習係
☎㊿９１５９

	西暦	元号	できごと
安代平時代	1184	元暦元	宇都宮朝綱、源頼朝より本領を安堵され、新恩を給付される。
	1192	建久3	源頼朝、征夷大将軍に任ぜられる。
	1196	建久6	頼業、宇都宮頼綱の次男として生まれる。
	1221	承久3	承久の乱起きる。頼業が活躍する。
	1237	嘉禎3	頼業、河内郡横田郷兵庫塚に居館を作り、宇都宮より分家する。
	1240	仁治元	このころ頼業、伊予国守護に任ぜられる。
	1247	宝治元	宝治合戦に際し、三浦泰村と関係の深かった、頼業の兄時綱が自害。
鎌倉時代	1249	建長元	頼業、上三川城を築き横田郷より移る。
	1277	建治3	頼業、死去。
	1320	元応2	**五代上三川城主横田貞朝、上三川城内に善応寺を建立し、横田氏の菩提寺とする。このころ、上三川城主横田家累代の墓が作られる。**
	1333	元弘3	鎌倉幕府滅亡。
南北朝時代	1339	暦応2	春日顕国が吉野から小田城に到着し、下野方面に進出し、宇都宮勢足利方と戦い、上三川城が落ちる。
	1351	観応2	駿河薩捶山で足利尊氏、弟直義が戦う。五代上三川城主横田貞朝、駿河薩捶山合戦で敵陣営に乗り込み、十七騎を討ち取り、足利尊氏から恩賞を受ける。
	1380	康暦2	裳原の戦い。小山義政に宇都宮基綱敗れる。上三川城主師綱・綱業父子は参戦するも重傷を負う。
			※このころ上三川城主が今泉家に代わる
室町時代	1467	応仁元	応仁の乱始まる。
	1477	文明9	横田綱親と子の保業・清業、古河公方の命を受けた宇都宮正綱と共に上野に出陣するも、討ち死にする。
	1549	天文18	喜連川五月女坂の合戦。宇都宮勢、那須勢に敗れる。横田家当主横田綱維はじめ、横田家の5名が戦死する。
国代戦時	1597	慶長2	上三川城廃城。